

- 1 溺死たとへば最後に腐る胃の獅子唐
- 2 花火祭木桶に浮かぶ赤子かな
- 3 かげろふは蜉蝣王の化身なる
- 4 海峡の難破に桃のしたたるや
- 5 眞葛野や歸る時間を卓に置く
- 6 あきつかぜ僧衣に尼をつつみたる
- 7 ひとたびは滅びし梨を殖やしけり
- 8 東方を征せよ梨が下手に剥け
- 9 割禮や瓶のはじかみとはキリスト
- 10 また名譽を見たぞ見たぞと茸狩
- 11 ざりがにのほふ田となり女官の死後
- 12 燃えにくきものに木琴志ん生忌
- 13 黒帯の無言で混じる木賊刈り
- 14 瓦斯の火が産着に及ぶ月見かな
- 15 蠮螋の自決のたびに眼鏡を換へ
- 16 晝の衣に耳を隠しぬ木賊刈
- 17 風呂は大いなる白湯生姜掘りごろに
- 18 死後も讀書するなり花梨がこはれてゐるけど
- 19 燭魚の干されて青き星のうへ
- 20 下ナカイも猓も麒麟も冬園よ
- 21 石置けば墓富士置けば神の旅
- 22 みな葱を手にして立てり葱畑
- 23 残蠟をもろ手に量り獅子舞來る
- 24 寒卵殻の微塵を閨に敷き
- 25 捨菊をまた別に捨て野を空くる

- 26 酒粕に鱈は一夜を古びたり――
- 27 天使ら船を沈め出汁沸く湯に滑子――
- 28 着ぶくれて放生の鳩作者の死――
- 29 生も死も選ばず金屏に歸る――
- 30 今年のことみな終へ首に巻ける蛇――
- 31 よく保つや乳は乳房を経て凍る――
- 32 手袋のかたち消えて友らの手――
- 33 鶴の何處を撃ちてもみどりごやはらかし――
- 34 馬はまぼろし雪搔きの女の残り湯飲む――
- 35 月は流刑地粥より蟹の脚突き出――
- 36 全身で海鼠は踊る實朝忌――
- 37 冬帽あまた枝に掛け人體模型に掛け――
- 38 みな善きひと蟹の脚折る業に長け――
- 39 風花や蕉門の戀シャツを脱ぐ――
- 40 地は嫌と寒鮒死せるまで謂はず――
- 41 花菜雪臨書の逸れて指を嘗む――
- 42 死ぬるまで微熱のつづく梅さがし――
- 43 腹の兒にみずなさらだの水の影――
- 44 書人傳中宦官憤死花李――
- 45 梳かるること菜畑に屈み捻挫見せよ――
- 46 背凭れに齒形の沈む梅見かな――
- 47 ひとり食ふ海苔は紙幣の美味のごとし――
- 48 うしろからそして頭のうへ蝶交る――
- 49 重箱の二段目は砂養花天――
- 50 馬と妊婦青野で撮りし誰に笑ふ――

- 51 全身に臍の散らばる花大樹――
- 52 干鱈の何處にも青のなかりけり――
- 53 パンジー恐怖症明ければ長門の不沈永久――
- 54 生涯分子宮に卵八重櫻――
- 55 鯛の身を尼僧と美僧うりふたつ――
- 56 藤棚に素足は人を離れつつ――
- 57 割れぬ間にその次を吹くしやぼんかな――
- 58 田螺なほ互ひ嘗めたり田螺和――
- 59 生れてより立つも座るもせず墓は――
- 60 蛤や乳房に觸れしまま値切る――
- 61 歸る人に釘煮渡せば微笑みぬ――
- 62 骰子振りて加賀の春夜にこぼれたり――
- 63 卷尺が麻痺の身めぐるチュリツプ――
- 64 金比羅へ蝶は人面なほもちて――
- 65 壺市の壺は覘かれ青鷹――
- 66 スカートに匿ふ雄鶏花菜漬――
- 67 長考に天元取らぬ椿かな――
- 68 此のところ吉良方鬣肩春の山――
- 69 きるじやぶと爆弾に文字茄子の花――
- 70 大王が結び目を切る夕牡丹――
- 71 曾良忌まで狼魚のはだかかな――
- 72 肘まで入る母馬のほと牡丹の斑――
- 73 桑の實を忌まわしと母子らわれを見む――
- 74 星を占め蟲みな奇怪梅雨の婚――
- 75 京都驛高階鰻婚家に幸――

- 76 水羊羹脚のあひだに目があつて――
- 77 汝に鱗がわれに乳房がなき初蚊帳――
- 78 見かけこそ愛じゆんさゝみは瓶を出す――
- 79 罐にまだ肉を餘して瀧見かな――
- 80 男身も女身も蛸の入りどころ――
- 81 虚子以來保夜の吐く水鹽し――
- 82 唐橋のつづくかぎりに裸かな――
- 83 繪日記を搾れば金に銀に灼け――
- 84 停まるるとき宙に早の一輪車――
- 85 ふと太古男の汗が薙ぐ杉菜かな――
- 86 銀河系乳房ふたつと謂はず多々――
- 87 向日葵やとりまく吾のひとりづつ――
- 88 鯖壽司は死後にも求め易きかな――
- 89 茄子を煮るなかばより兒を煮てゐたり――
- 90 遠雷やからだ嗅ぎあふ石切り場――
- 91 むらさきのほともあり乞われ毛蟲打つ――
- 92 向日葵は乳房のはざまにも重たし――
- 93 閻魔その舌馴れ鮓にして吾に呉れよ――
- 94 苦瓜の下半黄熟新幹線――
- 95 柿の葉鮓開けば平家滅びてゐし――
- 96 背丈あらばユツカの花を天より摘む――
- 97 凌霄花臍の緒残る身投げかな――
- 98 瀧有りやと百日紅その百日目に――
- 99 鮓足らぬも餘るも青き蚊帳のそと――
- 100 茄子の紺握るや現實以外聞――